

# トルコ語 109/2000 文\*

福盛 貴弘<sup>†</sup>

キーワード：トルコ語、フランス語 2000 文、対面調査

## 1 はじめに

Frei (1953)による『*Le livre des deux milles phrases* (フランス語 2000 文)』は、2000 の語彙項目<sup>1</sup>を見出しとし、その見出し語に対するフランス語の例文を示した文の辞典である。語彙間だけでなく、文脈をふまえた差異を示そうという試みであり、その文例が他言語に翻訳されれば、言語間の差異も検証できるだろうという趣旨で刊行された(福盛 2014 再掲)。その趣旨に従って、比較的早い時期にイギリス英語やアメリカ英語、中国語など 9 言語で翻訳されたが、それ以外の地域での翻訳がなかなかされなかった。

日本では、1971 年に早稲田大学語学教育研究所によって『日本語二千文』が刊行された。その後、城生 (1975)において、未完でありながらモンゴル語への適用を試みた。その流れを知った筆者が、2000 年にトルコ語での調査を開始した。同時期に朝鮮語への適用も試みられ、日土蒙朝における対照語彙分析の試論を示唆するものとして福盛他 (2001)が記された。『日本語二千文』以外に未完のものが続く中、2006 年に『徳之島方言二千文辞典』といった 2000 文すべてに適用できた著書(岡村他 2006)が刊行された。そして、日本語の方言版としては徳之島方言に適用されたのが嚆矢である。

---

\* 本研究は、科学研究費基盤研究(C) (課題番号 26370458) の助成を受けている。

<sup>†</sup> 大東文化大学外国語学部

<sup>1</sup> どの程度あれば対照研究の基盤になるであろうかを考え、コンピュータが発達していない当時としては、ひとまず 2000 文あれば検証しやすいであろうという想定でできあがった。よって、2000 という数字にそれ以上の意味はない。

その後、2014年に「大阪方言二千文」を筆者が自身の母方言を基に翻訳した福盛 (2014)を公開した。

未完であった理由の主たるものとして、被調査者に対する拘束時間の問題があった。翻訳形式をとる場合、元のフランス語から、あるいはフランス語版をふまえた日本語版からということになるので、それらの言語運用においてそれ相応のレベルが要求される。城生 (1975)や本稿においてはその欠を補うべく、対面調査による記述で進めたのだが、結構な時間がかかってしまい、被調査者の都合で志半ばで断念せざるを得なかった。よって、完成版であれば堂々と「2000文」と名乗れるのだが、中座してしまった調査の報告であるため、本稿は「109/2000文」というタイトルにした。

## 2 方針

### 2.1 調査言語および被調査者

本稿で扱うトルコ語はイスタンブル方言を基とした現代トルコ語共通語である。本調査の被調査者はアンカラ出身であるので、いわゆるイスタンブルっ子らしい方言が含まれない共通語となっている。被調査者の情報(調査時当時)は以下のとおりである。

氏名：Deniz Bökesoy 氏

性別：女性

年齢：20代

言語形成地：Ankara

### 2.2 調査方法

本調査では、以下の手順(福盛他 2001)で対面調査による記述を行った。

(A)各言語の調査者・被調査者が対面調査によって、文例をあげていく。その際、『日本語二千文』を基にし、調査者がその文の意味および推測できる場面・状況を媒介言語である日本語で行う。

↓

(B)文例が複数あがった場合には、基にした日本語文の逐語訳文例よりも、被調査者にとってその状況下で最も自然度の高い文例を選択してもらう。

↓

(C)選ばれた文例を示し、全体で検討する<sup>2</sup>。その際には、各言語の調査者・被調査者だけでなく、多言語の担当者も含めて、(a)状況説明に不一致がなかったか、(b)調査が妥当であったか、を中心に相互確認する。

↓

(D)日本語・モンゴル語・トルコ語・朝鮮語の4言語における文例を対照し、それらの類似点および相違点を検討する。

↓

(E)不備があれば再調査。→(A)に戻る。

↓

(F)再び(A)に戻り、次の文例を調査する。

一度に多量を扱うことはできず、初期の段階では慎重に検討を重ねて調査を進める方が賢明と判断したため、以上のような手順でことを進めたのだが、結果としてトルコ語での調査は未完のままとなってしまった。ただ、未完ではあっても、部分的に例文が筆者以外の研究者にも利用できるならと判断し、今回公開するにいたった。

### 2.3 資料の表記に関して

本稿でのトルコ語の表記はトルコ語式単音型ラテン系文字<sup>3</sup>を用いる。トルコ語の文字と音声の対応を略記すると以下の通りである。

a, b, c[dʒ], ç[tʃ], d, e, f, g, ğ[長音化, 無音], h, ı[u], i, j[ʒ], k, l, m, n, o, ö[ø], p, r, s, ş[ʃ], t, u, ü[y], v, y[j], z

<sup>2</sup> 2000 年度に筑波大学大学院文芸言語研究科で開講された「一般言語学特講」において進めてきた。その際に、フランス語における解釈とモンゴル語の例文の提供は城生佰太郎氏が行ない、朝鮮語の例文は宇都木昭氏と高慧禎氏が提示した。また、コメンテーターとして佐々木冠氏が同席していた。

<sup>3</sup> 文字の呼称については、福盛・池田 (2002) に基づいている。

3.1.節では、『日本語二千年』の日本語の文と、それに対応するトルコ語の文を列記している。3.2.節において、トルコ語に対する語彙の日本語訳を“脚”のようにダブルクォーテーションでくくり、機能語・接辞についてはその機能を示している。機能の略記は以下の通りである。

1 : 1 人称、2 : 2 人称、3 : 3 人称

単 : 単数、複 : 複数、所 : 所有接辞

cf.1 単→1 人称単数で主語を表す接辞「私が」

1 単所→1 人称単数が所有することを表す接辞「私の」

2 単要求→2 人称単数に要求「(君に) してもらいたい」

対 : 対格、与 : 与格、位 : 位格、奪 : 奪格、属 : 属格

動名 : 動名詞、自動 : 自動詞化、名化 : 名詞化

形 : 形容詞性接辞

弱 : 形容詞語幹の意に弱まりの意を付加する副詞性接辞

在 : 語幹に「～がある/いる、～を有する」の意を付加する形容詞性接辞

不在 : 語幹に「～がない、～を有しない」の意を付加する形容詞性接辞

時副 : 時間を表す名詞につく副詞性接辞

道具 : 名詞語幹からそれに関わる道具の意を派生させる名詞性接辞

否 : 否定、疑 : 疑問、

### 3 資料一覧

#### 3.1 日本語—トルコ語対照文一覧

##### A.人間

##### I .からだ

##### 1.頭・顔

1. 頭の上から日がかんかん照りつけている。

Başımın üzerine güneş cayıır vuruyor.

2. 髪の毛がちぢれている。  
Saç telleri kıvrır kıvrır.
3. あの人の頭のでっぺんは髪の毛が薄いね。  
Başının üzerindeki saçlar seyrek, değil mi?
4. おでこをなぐられた。  
Alnıma vuruldu.
5. 顔がしわくちゃだ。  
Yüzü kırış kırış.
6. 顔色がよくなった。  
Yüzünün rengi düzeldi.
7. あんまりこわくて、顔がまっさおになった。  
Öyle korktu ki yüzü masmavi oldu.
8. このカラーはきつくて、首が窮屈だ。  
Bu yaka dar, boynumu sıkıyor.

## 2.目

9. とくにきれいなのは目だね。  
En güzel yanı gözleri, değil mi?
10. 何も見えない。  
Hiç bir şey görünmüyor.
11. ぼうぼう見たけど、見当たらなかった。  
Oraya buraya bakındım ama göremedim.
12. うわあ、人がじろじろこっちを見てるよ。  
Aaa, biri buraya bakıp duruyor.
13. 絵はがきを見せてください。  
Kartpostalı gösterir misiniz lütfen?
14. 展覧会はもう始まっているよ。  
Sergi başladı bile.
15. 視力が衰え始めた。  
Görme gücüm azalmaya başladı.

16. あの人は目がいいね。  
Gözleri keskin değil mi?
17. 目があまりよくないんです。  
Gözlerim pek iyi değil.
18. めがねなしで読めます。  
Gözlüksüz okuyabilirim.
19. このごろ近眼がずいぶん増えた。  
Son zamanlarda miyobum epey ilerledi.
20. あの人は盲<sup>4</sup>です。  
O kördür.

## 3. 耳

21. 耳が冷たい。  
Kulaklarım soğuk.
22. (A)何も聞こえないよ。ー  
Hiç bir şey duyulmuyorum.
23. (B)よく耳を澄ませば聞こえるよ。  
İyice kulak verirsen duyarsın.
24. あの人は耳が聞こえないんです。  
Kulakları duymuyor.
25. 耳が遠いんです。  
Ağır işitiyor.
26. かなつんぼだ。  
Küp gibi sağır.

## 4. 鼻

27. ほら、はなが出てるよ。  
Hey, sümüğün akıyor.

---

<sup>4</sup> 原文ママ。以下、類することばについても同様。

28. (A)何もにおわないよ。－  
Hiç koku almıyorum.

29. (B)鼻のきかないやつだな。  
Sen hiç koku alamıyorsun.

30. さあ、はなをかんで。  
Hadi, burnunu sümkür.

31. おかげでくしゃみが出た。  
Sayende hapşurdum.

## 5. 口

32. 口をちゃんと閉じてなさい  
Ağzımı doğru dürüst kapa!

33. くちびるがかさかさになっちゃった。  
Dudaklarım çatladı.

34. 舌をやけどした。  
Dilimi yaktım.

35. このお菓子はレモンの味がする。  
Bu tatlı limon tadında.

36. ちょっとこのコーヒーを味わってごらん。  
Şu kahvenin bir tadına baksana.

37. きのう歯を 1 本抜いてもらった。  
Dün bir dişimi çektirdim.

38. この歯は虫歯になってる。  
Bu diş çürük.

39. お茶を吹いてさまそうっと。  
Çayı(/Çaya) soğuması için üfleyeyim.

40. のどが痛くてものがのみ込めない。  
Boğazım öyle ağrıyor ki yutkunamıyorum.

## 6. 飲食

41. こんなもの、食べられないよ！  
Yenmez böyle şey!
42. 何か飲み物をください。  
İçecek bir şey versene.
43. おなかがすいた。  
Karnım acıktı.
44. (A)のどがかわいた。— (B)ぼくもだ。  
(A) Susadım. (B) Ben de.
45. 食欲がないんです。  
İştahım yok.
46. おなかが減ってるというわけじゃないんだけど、ぼくは食いしんぼう  
なんでね。  
Karnım acıktığından değil, oburluğumdan.
47. なかなか口の肥えた人だね。  
Ağzının tadını biliyor.

## 7. 胴

48. からだつきがいい。  
Vücut hatları güzel.
49. わきっ腹にけがをした。  
Şu yanını yaraladı.
50. 背中を痛めた。  
Sırtımı incittim.
51. 胸に十字架をさげている。  
Göğsünde bir haç taşıyor.
52. からだは弱っているが、内臓器官はまだじょうぶです。  
Vücudu zayıf düşmüş, ama iç organları hala sağlam.
53. あの人は心臓が悪い。  
Kalbi zayıf.



54. 右の肺がどうにかなってる。  
Sağ ciğerinde bir sorun var.
55. とても息苦しそうだった。  
Nefes almakta çok zorlanıyordu.
56. 胃が痛む。  
Midem ağrıyor.
57. おなかが痛い。  
Karnım ağrıyor.

## 8.手

58. 手足が棒のようになった。  
Yorgunluktan elim ayağım tutmaz oldu.
59. わたしの腕にさわった。  
Koluma dokundu.
60. 肩車をしてやった。  
Omzuma çıkardım.
61. (腕時計のバンド)これはきつすぎる。  
Bu çok sıkı.
62. テーブルにひじをつくんじゃないありません。  
Masaya dirsek dayanmaz.
63. 手がインクだらけだ。早く洗っておいで。  
Ellerin mürekkep içinde. Çabuk yıka da gel.
64. 指をくわえてこっちをじろじろ見ていた。  
Parmağı ağzında buraya bakıp duruyordu.
65. (子どものけがが)今度は親指だね！  
Bu kez de baş parmak öyle mi.
66. 人さし指をなくしたんだ。不自由だろうね。  
İşaret parmağını kaybetmiş. Çok zor olmalı.
67. 不潔だね。そんなにつめを伸ばして！  
Ne pislik. Öyle tırnak uzatılır mı?
68. 機械にさわってはいけません。

Aletlere dokunma.

69. (道路の横断)手をつないで渡りましょう。

El ele tutuşup geçelim.

70. わたしの腕をつかんだ。

Kolumu yakaladı.

71. 気をつけて持っていてください。

Lütfen dikkatli tut.

72. 手を放してくださいよ。

Bırak lütfen.

73. (A)ボールを投げて！—

Topu at!

74. (B)そら行くぞ！

Atıyorum!

## 9.足

75. あの女、足が短いね。

O kadının bacakları kısa.

76. くつずれができちゃった。

Ayakkabı vurdu.

77. ひざを痛めた。

Dizimi incittim.

78. ももの骨を折った。

Kalça kemiğini kırdı.

79. どうぞお掛けください。

Lütfen oturun.

80. 立っているよりすわっているほうがつかれることもある。

Ayakta durmaktansa oturmanın daha fazla yorduğu olur.

81. ソファーに寝そべっている。

Kanepede uzanıyor.

82. そら、立って。

Hey. Ayağa kalk!

83. あんまり長く立っていたので、くたびれちゃった。  
Fazla ayakta durmaktan yorulдум.
84. わたしたちはずいぶん歩きました。  
Bayağı yürüdüк.
85. もう 1 歩も動けないよ。  
Bir adım daha atacak hâlim kalmadı.
86. みんながどっとやってきた。  
Herkes birden geldi.
87. (犬) さくをとび越えた。  
(köpek) Parmaklıklardan atladı.

10. 血・肉・骨

88. あの人ははだが黒いね。  
Kadın esmer.
89. たまは体内に残った。  
Kurşun vücudunda kaldı.
90. きみの腕、すばらしい筋肉だなあ！  
Pazıların harika.
91. (歯医者) 神経を抜いてしまったほうがいいでしょう。  
Siniri almak daha iyi olabilir.
92. 包帯に血がにじんでいる。  
Sargıdan kan sızmış.
93. 血管がずいぶん出ているね。  
Damarların çıkmış.
94. おとといから脈が弱くなっているんです。  
Evvvelsi günden beri nabzı düşük.
95. 骨が 1 本折れている。  
Bir kemiği kırık.

## 11. 体格

96. わたしと身長が同じだ。  
Boyu benimle aynı.
97. まるで小人ね。  
Neredeyse cüce gibi.
98. 背が高い。  
Boyu uzun.
99. ずいぶん大きくなったね。  
Epey de büyümüş.
100. やせているように見える。  
Zayıflamışa benziyor.
101. あの女、ちょっと太りすぎだね。  
Şu kadın da amma şişman.
102. 体が弱っていて歩けません。  
Yürüyecek hâlim yok.
103. あいつ、すごい力だよ。  
Adam amma da güçlü.

## 12. 睡眠・休息

104. もうとつくに目がさめていた。  
Çoktan uyanmıştı.
105. あの人は早起きです。  
Sabahları erken kalkar.
106. 夜ふかしするから、なかなか起きられないんだよ。  
Geceleri geç yattığından sabahları kolay kolay uyanamıyor.
107. 寝ています。  
Uyuyor.
108. ほら、いびきをかき始めたよ。  
Şuna bak. Horlamaya başladı.
109. 今夜はあくびばかりしていた。  
Bütün gece esneyip durdu.

### 3.2 トルコ語例文逐語訳

#### 1. 頭・顔

1. 頭の上から日がかんかん照りつけている。

Baş-ım-ın                    üzeri-ne   güneş   cayıy cayıy                    vur-uyor.  
 “頭”-1 単所-属            “上”-与   “日光”   “がんがん”                    “当たる”-継続<sup>5</sup>  
 “私の頭の上に日光ががんがん当たっている。”

2. 髪の毛がちぢれている。

Saç            tel-ler-i                    kıvrır kıvrır.  
 “髪”            “毛”-複-3 単所            “ちりぢり”  
 “彼（女）の髪の毛がちりぢりだ。”

3. あの人の頭のでっぺんは髪の毛が薄いね。

Baş-ı-nın                    üzer-i-nde-ki                    saç-lar    seyrek,    değil mi?  
 “頭”-3 単所-属            “上”-限定-位-在            “髪”-複    “薄い”    否+疑  
 “彼の頭の上にある髪は薄いね。”  
 ※değil mi 否+疑→確認「～ね、～じゃないか」

4. おでこをなぐられた。

Alın-ım-a                    vur-ul-du.  
 “おでこ”-1 単所-与            “殴る”-受身-過去  
 “私のおでこを殴られた。”  
 ※alın, -lm 「おでこ」<sup>6</sup>

---

<sup>5</sup> -(i)yor の o は母音調和の例外で、先行する母音に影響されず交替形がない。  
<sup>6</sup> 第 2 音節が狭母音で、母音で始まる接辞が後続した時に第 2 音節の母音が脱落する語を以下 alın, -lm のように表記する。

5. 顔がしわくちやだ。

Yüz-ü kırıř kırıř.  
 “顔”-3 単所 “しわくちや”  
 “彼（女）の顔がしわくちやだ。”

6. 顔色がよくなった。

Yüz-ü-nün reng-i düzel-di.  
 “顔”-3 単所-属 “色”-限定“治る”-過去  
 “彼（女）の顔の色が治った。”  
 ※renk, -gi 「色」<sup>7</sup>

7. あんまりこわくて、顔がまっさおになった。

Öyle kork-tu ki yüz-ü mas-mavi  
 “そんなに” “恐れる”-過去 原因 “顔”-3 単所 強調-“青”  
 ol-du  
 “なる”-過去  
 “そんなに恐れたので、彼（女）が真っ青になった。”

8. このカラーはきつくて、首が窮屈だ。

Bu yaka dar, boyn-um-u sık-ıyor.  
 “この” “カラー” “きつい” “首”-1 単所-対 “しめつける”-継続  
 “このカラーはきつくて、私の首を絞めつけている。”  
 ※boyun, -ynu 「首」

<sup>7</sup> 語末の無声子音 -p, -t, -k, -ç は母音で始まる接辞が後続した時に -b, -d, -ğ, -c に規則的に変わる。規則的に変化したものは、元の語幹のみ表記する。その規則の反例となるものを以下 renk, -gi のように表記する。

2. 目

9. とくにきれいなのは目だね。

En güzel yan-ı göz-ler-i,  
 “特に” “きれいな” “所”-3 単所 “目”-複-3 単所  
 değil mi?

否+疑

“彼（女）の特にきれいなところは、目ではないか。”

※değil mi 否+疑→確認「～ね、～じゃないか」

10. 何も見えない。

Hiç bir şey gör-ün-mü-yor.  
 “全く” “ある” “もの” “見る”-自動-否定-継続  
 “全くものが見えなくなっている。”

11. ほうぼう見たけど、見当たらなかった。

Ora-ya bura-ya bak-ın-dı-m  
 “あちら”-与 “こちら”-与 “見る”-自動-過去-1 単  
 ama gör-eme-di-m.  
 “しかし” “見る”-不可能-過去-1 単

“私はあちらこちらに目をやったが、見るができなかった。”

12. うわあ、人がじろじろこっちを見てるよ。

Aaa, biri bura-ya bak-ıp dur-uyor.  
 “うわあ” “ある人” “こちら”-与 “見る”-連用 “し続ける”-継続  
 “うわあ、ある人がこちらを見続けている。”

13. 絵はがきを見せてください。

Kartpostal-ı göster-ir mi-siniz lütfen?  
 “絵葉書”-対 “見せる”-超越<sup>8</sup> 疑問-2 複<sup>9</sup> “どうか”  
 “どうか、絵はがきを見せていただけますか。”

14. 展覧会はもう始まっているよ。

Sergi başla-dı bile.  
 “展覧会” “始まる”-過去 取立  
 “展覧会も始まった。”<sup>10</sup>

15. 視力が衰え始めた。

Gör-me güc-ü-m azal-ma-ya başla-dı.  
 “見る”-動名 “力”-限定-1 単所 “衰える”-動名-与 “始まる”-過去  
 “私の視力が衰え始めた。”  
 ※güç 「力」

16. あの人は目がいいね。

Göz-ler-i keskin değil mi?  
 “目”-複-3 単所 “鋭い” 否+疑  
 “彼の眼は鋭いね。”  
 ※değil mi 否+疑→確認「～ね、～じゃないか」

17. 目があまりよくないんです。

Göz-ler-im pek iyi değil.  
 “目”-複-1 単所 “あまり” “いい” 否定  
 “私の目があまり良くない。”

<sup>8</sup> 現在、一般的真理、習慣などをあらわすアオリストのことを、和訳して超越形としており、超越はその略語となる。

<sup>9</sup> 2人称複数で2人称単数への待遇表現となる。

<sup>10</sup> 調査後に気づいた誤訳である。ここでの文例では、「展覧会も始まった。」が逐語訳になる。「bile」を「すでに」に該当する「şimdiden」「zaten」に置き換えると対照する役となる。



18. めがねなしで読めます。

Gözlük-süz oku-yabil-ir-im.

“めがね”-不在 “読む”-可能-超越-1 単

“眼鏡なしで私は読めます。”

※göz-lük” 目”-道具→めがね

19. このごろ近眼がずいぶんふえた。

Son zaman-lar-da miyob-um epey ilerle-di.

“最近の”“時”-複-位 “近眼”-1 単所 “ずいぶん” “進む”-過去

“最近、私の近眼がずいぶん進んだ。”<sup>11</sup>

※miyop 「近眼」

20. あの人は盲です。

O kör-dür.

“あれ” “盲”-繫辞

“‘彼（女）は盲だ。”

21. 耳がつめたい。

Kulak-lar-ım soğuk.

“耳”-複-1 単所 “冷たい”

“私の耳が冷たい。”

### 3. 耳

22. (A)何も聞こえないよ。—

Hiç bir şey duy-ul-mu-yor-um.

“全く” “ある” “もの” “聞こえる”-再帰-否定-継続-1 単

“何も聞こえていない。”

<sup>11</sup> 調査後に気づいた誤訳である。これでは「近眼の人が増えた」ではなく、「自身の近眼の度合が進行した」という意味になる。

23. (B)よく耳を澄ませば聞こえるよ。 —

İyi-ce kulak ver-ir-se-n duy-ar-sın.

“よい”-弱 “耳” “与える”-超越-仮定-2 単 “聞こえる”-超越-2 単

“君がちょっと聞き耳を立てれば、君は聞こえる。”

kulak ver- 聞き耳を立てる

24. あの人は耳が聞こえないんです

Kulak-lar-ı duy-mu-yor.

“耳”-複-3 単所 “聞こえる”-否定-継続

“彼の両耳は聞こえなくなっている。”

25. 耳が遠いんです。

Ağır işit-iyor.

“難しい” “聞く”-継続

“困難さを伴って聞いている。”

26. かなつんぼだ。

Küp gibi sağır.

“甕” 様態 “つんぼ”

“甕のようなつんぼだ。”

#### 4. 鼻

27. ほら、はなが出てるよ。

Hey, sümüg-ün ak-ıyor.

“ほら” “鼻水”-2 単所 “流れる”-継続

“ほら、君の鼻水が流れている。”

※sümük 「鼻水」

28. (A)何もにおわないよ。—

Hiç koku al-mı-yor-um.

“何も” “におい”“受け入れる”-否定-継続-1 単

“私は何もにおいを受け入れていない。”

29. (B)鼻のきかないやつだな。

Sen hiç koku al-amı-yor-sun.

“君は” “何も” “におい” “受け入れる”-不可能-継続-2 単

“君は何もにおいを受け入れられないでいる。”

30. さあ、はなをかんで。

Hadi, burn-un-u sümkür.

“さあ” “鼻”-2 単所-対 “鼻をかむ”命令

“さあ、君の鼻をかんで。”

※burun, -rnu 「鼻」

31. おかげでくしゃみが出た。

Saye-nde hapşur-du-m.

“陰”-位 “くしゃみをする”-過去-1 単

“おかげで私はくしゃみをした。”

## 5. 口

32. 口をちゃんと閉じてなさい。

Ağz-in-i doğru dürüst kapa!

“口”-2 単所-対 “まっすぐ” “ちゃんと” “閉じる”命令

“あなたの口をちゃんと閉じなさい。”

※ağız, -ğız 「口」、doğru dürüst 「正しく、ちゃんと」

33. くちびるがかさかさになっちゃった。

Dudak-lar-ım      çatla-dı.

“唇”-複-1 単      “ひびが入る”-過去

“私の唇がひびが入った。”

34. 舌をやけどした。

Dil-im-i      yak-tı-m.

“舌”-1 単所-対      “焼く”-過去-1 単

“私の舌を焼いた。”

35. このお菓子はレモンの味がする。

Bu      tatlı      limon      tad-ı-nda.

“この” “お菓子” “レモン” “味”-限定-位

“このお菓子はレモン味だ。”

※tat 「味」

36. ちょっとこのコーヒーを味わってごらん。

Şu      kahve-nin      bir      tad-ı-na      bak-sana.

“その” “コーヒー”-属      “ある” “味”-限定-与      “みる”-2 単要求

“そのコーヒーの味をみてください。”

37. きのう歯を 1 本抜いてもらった。

Dün      bir      diş-im-i      çek-tir-di-m.

“昨日” “1” “歯”-1 単所-対      “抜く”-使役-過去-1 単

“昨日私の 1 本の歯を私が抜かせた。”

38. この歯は虫歯になってる。

Bu      diş      çürük.

“この” “歯” “腐った”

“この歯が腐った。”

※diş çürüğü 「虫歯」

39. お茶を吹いてさまそうっと。

Çay-ı(/Çay-a) soğu-ma-sı için üfle-ye-yim.

“茶”-対(“茶”-与) “冷める”-動名-限定 目的 “ふーっと吹く”-願望-1 単  
 “お茶が冷めるために、私がふーっと息を吹こう。”

40. のどが痛くてものがのみ込めない。

Boğaz-ım öyle ağrı-yor ki

“のど”-1 単所 “そんなに” “痛む”-継続 原因

yutkun-amı-yor-um.

“飲み込む”-不可能-継続-1 単

“私の喉が痛いので、私は飲み込めなかった。”

## 6. 飲食

41. こんなもの、食べられないよ！

Ye-n-mez böyle şey!

“食べる”-受身-否定 “こんな” “もの”

“食べられない、こんなもの！”

42. 何か飲み物をください。

İçecek bir şey ver-sene.

“飲み物” “ある” “もの” “あげる”-2 単要求

“飲み物を何かあげなさい。”

43. おなかがすいた。

Karn-ım acık-tı.

“おなか”-1 単 “お腹がすく”-過去

“私のお腹がすいた。”

※karn, -rni 「おなか」

44. (A)のどがかわいた。—(B)ぼくもだ。

(A) Susa-dı-m. (B) Ben de.

“のどがかわく”-過去-1 単 “私” 取立

“のどがかわいた。— 私も。”

45. 食欲がないんです。

İştah-ım yok.

“食欲”-1 単所 “ない”

“私の食欲がない。”

46. おなかが減ってるわけじゃないんだけど、ぼくは食いしんぼうなんでね。

Karn-ım acık-tığ-ı-ndan değil,

“おなか”-1 単所 “お腹がすく”-連体-限定-奪 否定

obur-luğ-um-dan.

“大食いの”-名化-1 単所-奪

“私のお腹がすいているからではないが、私は大食いだから。”

※karn, rını 「おなか」

47. なかなか口の肥えた人だね。

Ağz-ı-nın tad-ı-nı bil-iyor.

“口”-3 単所-属 “味”-限定-対 “知る”-継続

“彼（女）の口が味を知っている。”

※ağız, ğızı 「口」、tat 「味」

48. からだつきがいい。

Vücut hat-lar-ı güzel.

“体” “線”-複-3 単所 “美しい”

“彼（女）の体の線が美しい。”

7. 胴

49. わきっ腹にけがをした。

Şu yan-ı-nı yarala-dı.

“この” “脇”-限定-対 “けがをする”-過去

“この脇を怪我した。”

50. 背中を痛めた。

Sırt-ım-ı incit-ti-m.

“背中”-1 単所-対 “痛める”-過去-1 単

“私の背中を私が痛めた。”

51. 胸に十字架をさげている。

Göğs-ünde bir haç taşı-yor.

“胸”-3 単所-位 “1” “十字架” “身に着ける”-継続

“彼（女）の胸に、十字架を身に着けている。”

※göğüs, -ğsu 「胸」

52. からだは弱っているが、内臓器官はまだじょうぶです。

Vücut-u zayıf düş-müş, ama

“体”-3 単所 “弱く” “弱る”-完了 “しかし”

iç organ-lar-ı hala sağlam.

“内” “器官”-複-3 単所 “まだ” “丈夫な”

“彼（女）の体は弱ったが、内臓器官はまだ丈夫だ。”

※vücut 「体」

53. あの人は心臓が悪い。

Kalb-i zayıf.

“心臓”-3 単所 “弱い”

“彼（女）の心臓が弱い。”

※kalp 「心臓」

54. 右の肺がどうにかなってる。

Sağ ciğer-i-nde bir sorun var.  
 “右” “肺”-3 単所-位 “1” “問題” “ある”  
 “彼（女）の右の肺に問題がある。”

55. とても息苦しそうだった。

Nefes al-mak-ta çok zorlan-iyor-du.  
 “息” “とる”-動名-位 “とても” “苦しむ”-継続-過去  
 “息をすることにととても苦しんでいた。”

56. 胃が痛む。

Mide-m ağrı-yor.  
 “胃”-1 単所 “痛む”-継続  
 “私の胃が痛んでいる。”

57. おなかが痛い。

Karn-ım ağrı-yor.  
 “おなか”-1 単所 “痛む”-継続  
 “私のお腹が痛んでいる。”  
 ※karn, -rı 「おなか」

## 8. 手

58. 手足が棒のようになった。

Yorgun-luk-tan el-im ayağ-ım tut-maz ol-du.  
 “疲れた”-名化-奪 “手”-1 単所 “足”-1 単所 “機能する”-否定  
 “なる”-過去  
 “疲れることによって私の手と足は機能しなくなった。”  
 ※ayak 「足、脚」



59. わたしの腕にさわった。

Kol-um-a dokun-du.

“腕”-1 単所-与 “さわる”-過去

“私の腕に触った。”

60. 肩車をしてやった。

Omz-um-a çıkar-dı-m.

“肩”-1 単所-与 “あげる”-過去-1 単

“私の肩に私が上げた。”

※omuz, -mzu 「肩」

61. これはきつすぎる。

Bu çok sıkı.

“これ” “とても” “きつい”

“これはとてもきつい。”

62. テーブルにひじをつくんじゃありません。

Masa-ya dirsek dayan-maz.

“テーブル”-与 “ひじ” “寄りかかる”-否定

“テーブルにひじをつかない。”

63. 手がインクだらけだ。早く洗っておいで。

El-ler-in mürekkep iç-i-nde.

“手”-複-2 単所 “インク” “中”-限定-位

Çabuk yıka da gel.

“すぐ” “洗う”命令 順接 “くる”命令

“君の手がインクの中に。すぐ洗ってきなさい。”

64. 指をくわえてこっちをじろじろ見ていた。

Parmağ-ı                      ağız-ı-nda                      bura-ya                      bak-ıp  
 “指”-3 単所                      “口”-3 単所-位                      “ここ”-与                      “見る”-連用  
 dur-uyor-du.

“し続ける”-継続-過去

“彼（女）の指が口にあって、こっちを見続けていた。”

※parmak 「指」、ağız, -ğızı 「口」

65. 今度は親指だね！

Bu              kez              de              baş              parmak              öyle              mi.  
 “この”“度”              取立              “頭”              “指”              “そう”              疑問  
 “今度は親指か。”

※baş parmak 「親指」、öyle mi 確認

66. 人さし指をなくしたんだ。不自由だろうね。

İşaret              parmağ-ı-nı                      kaybet-miş.  
 “しるし” “指”-限定-対                      “なくす”-完了  
 Çok                      zor                      ol-malı.  
 “とても”                      “厄介な”                      “なる”-義務

“人差し指をなくした。とても厄介に違いない。”

※parmak 「指」、işaret parmak 「人差し指」

67. 不潔だね。そんなにつめを伸ばして！

Ne              pislik.              Öyle              tırnak              uzat-ıl-ır                      mı?  
 “なんと”“不潔”              “そんなに”“爪”              “伸ばす”-受身-超越                      疑問

“なんと不潔なんだ。そんなに爪が伸ばされるのか。”

※ここでの疑問の小辞 mi は反語の用法となっている。

68. 機械にさわってはいけません。

Alet-ler-e dokun-ma.

“機械”-複-与 “さわる”-禁止

“機械に触るな。”

69. 手をつないで渡りましょう。

El ele tut-uş-up geç-el-im.

“手” “手”-与 “つかむ”-相互-連用 “渡る”-願望-1 複

“手と手を互いにつかんで、一緒に渡ろう。”

70. わたしの腕をつかんだ。

Kol-um-u yakala-dı.

“腕”-1 単所-対 “つかまえる”-過去

“私の腕をつかまえた。”

71. 気をつけて持っていてください。

Lütfen dikkat-li tut.

“ください” “注意”-在 “つかむ”命令

“どうぞ注意してつかんでいてください。”

72. 手を放してくださいよ。

Bırak lütfen.

“放す”命令 “ください”

“放してください。”

73. (A)ボールを投げて！—

Top-u at!

“ボール”-対 “投げる”命令

“ボールを投げろ。”

74. (B)そら行くぞ!

At-iyor-um!

“投げる”-継続-1 単

“私がボールを投げているぞ。”

## 9.足

75. あの女、足が短いね。

O	kadın-ın	bacak-lar-ı	kısa.
“あの”	“女”-属	“足”-複-限定	“短い”

“あの女の脚が短い。”

76. くつずれができちゃった。

Ayakkabı	vur-du.
“靴”	“当たる”-過去

“靴が当たった。”<sup>12</sup>

77. ひざを痛めた。

Diz-im-i	incit-ti-m.
“ひざ”-1 単所-対	“痛める”-過去-1 単

“私の膝を私が痛めた。”

78. ももの骨を折った。

Kalça	kemiğ-i-ni	kır-dı.
“もも”	“骨”-限定-対	“折る”-過去

“腿の骨を折った。”

※kemik 「骨」

---

<sup>12</sup> この文だけだと、靴擦れや水ぶくれ、外反母趾などの要因となる状況を示していると考えられる。

79. どうぞお掛けください。

Lütfen otur-un.  
 “ください” “座る”-2 単命令  
 “どうぞ座ってください。”

80. 立っているよりすわっているほうが疲れることもある。

Ayak-ta dur-mak-tan-sa otur-ma-nın daha  
 “足”-位 “留まる”-動名-奪-假定 “座る”-動名-属 “より”  
 fazla yor-duğ-u ol-ur.  
 “すごい” “疲れる”-連体過去-限定 “ある”-超越  
 “立っているより座っていることのすごい疲れがある。”  
 ※ayakta dur- 「立っている」

81. ソファーに寝そべっている。

Kanepe-de uzan-ıyor.  
 “ソファー”-位 “横になる”-継続  
 “ソファーで横になっている。”

82. そら、立って！

Hey. Ayağ-a kalk!  
 “ほら” “足”-位 “起きる”命令  
 “ほら、立ちあがって。”  
 ※ayak 「足」、ayağa kalk- 「立ち上がる」

83. あんまり長く立っていたので、くたびれちゃった。

Fazla ayak-ta dur-mak-tan yor-ul-du-m.  
 “かなり” “足”-位 “留まる”-動名-奪 “疲れさせる”-自動-過去-1 単  
 “かなり立っていたから、私は疲れた。”  
 ※ayakta dur- 「立っている」

84. わたしたちはずいぶん歩きました。

Bayağı yürü-dü-k.  
 “ずいぶん” “歩く”-過去-1 複  
 “ずいぶん私たちは歩いた。”

85. もう 1 歩も動けないよ。

Bir adım daha at-acak hâl-im  
 “1”“歩” “さらに” “動く”-連体未来 “状態”-1 単所  
 kal-ma-dı.  
 “まだまだ”-否定-過去  
 “さらに 1 歩動ける状態のままではなかった。”

86. みんながどっとやってきた。

Herkes birden gel-di.  
 “みんな” “一度に” “来る”-過去  
 “みんなが一度に来た。”

87. [犬]さくをとび越えた。

(köpek) Parmaklık-lar-dan atla-dı.  
 “犬” “柵”-複-奪 “飛び越える”-過去  
 “(犬)柵を飛びこえた。”

88. あの人ははだが黒いね。

Kadın esmer.  
 “女” “こげ茶色”  
 “彼女はこげ茶色だ。”

10. 血・肉・骨

89. たまは体内に残った。

**Kurşun vücud-u-nda kal-dı.**

“弾丸” “体”-3 単所-位 “残る”-過去

“弾丸が彼（女）の体に残った。”

※vücut 「身体」

90. きみの腕、すばらしい筋肉だなあ！

**Pazı-lar-ın harika.**

“力こぶ”-複-2 単所 “すばらしい”

“君の力こぶはすばらしい。”

91. 神経を抜いてしまったほうがいいでしょう。

**Sinir-i al-mak daha iyi ol-abil-ir.**

“神経”-対“とる”-動名 “より” “いい” “なる”-可能-超越

“神経をとったほうが、よくなれる。”

92. 包帯に血がにじんでいる。

**Sargı-dan kan sız-mış.**

“包帯”-奪 “血” “にじむ”-完了

“包帯から血がにじんだ。”

93. 血管がずいぶん出ているね。

**Damar-lar-ın çık-mış.**

“血管”-複-2 単所 “出る”-過去

“君の血管が出た。”

94. おとといから脈が弱くなっているんです。

Evvvelsi                      gün-den    beri                      nabz-ı                      düşük.  
 “一昨日の”                      “日”-奪 以来                      “脈”-3 単所                      “下がった”  
 “おとといから彼（女）の脈が下がった。”  
 ※nabız, -bız 「脈」

95. 骨が 1 本折れている。

Bir                      kemiğ-i                      kırık.  
 “1”                      “骨”-限定                      “骨折”  
 “1 本の骨が骨折だ。”  
 ※kemik 「骨」

## 11. 体格

96. わたしと身長が同じだ。

Boy-u                      benim-le                      aynı.  
 “身長”-3 単所                      “私の”-共同                      “同じ”  
 “彼（女）の身長は私のと同じだ。”

97. まるで小人だね。

Neredeyse                      cüce                      gibi.  
 “ほとんど”                      “小人”                      様態  
 “ほぼ小人のようだ。”

98. 背が高い。

Boy-u                      uzun.  
 “身長”-3 単所                      “高い”  
 “彼（女）の身長が高い。”



99. ずいぶん大きくなったね。

Epey de büyü-müş.

“かなり” 取立 “大きくなる”-完了

“かなり大きくなった。”

100. やせてるように見える。

Zayıfla-mış-a benzi-yor.

“やせる”-連体完了-与 “みえる”-継続

“やせているように見える。”

※benze-「みえる」<sup>13</sup>

101. あの女、ちょっと太りすぎだね。

Şu kadın da amma şişman.

“その” “女” 取立 “実に” “太っている”

“その女は実に太っている。”

102. からだが弱っていて歩けません。

Yürü-yecek hâl-im yok.

“歩く”-連体未来 “状態”-1 単所 “ない”

“私が歩く状態ではない。”

103. あいつ、すごい力だよ。

Adam amma da güç-lü.

“男” “実に” 取立 “力”-在

“男が実に力がある。”

<sup>13</sup> 継続形-iyor が動詞語幹に後続した時に、動詞語幹末の母音が狭母音に交替する。

## 12.睡眠・休息

104. もうとつくに目がさめていた。

Çoktan uyan-mış-tı.

“とつくに” “目覚める”-完了-過去

“とつくに目が覚めてしまった。”

105. あの人は早起きです。

Sabah-lar-ı erken kalk-ar.

“朝”-複-時副 “早く” “起きる”-超越

“毎朝早くに起きる。”

106. 夜ふかしするから、なかなか起きられないんだよ。

Gece-ler-i geç yat-tığ-ı-ndan sabah-lar-ı  
 “夜”-複-時復 “遅い” “寝る”-連体過去-限定-奪 “朝”-複-時副  
 kolay kolay uyan-amı-yor.

“やすやすと” “目覚める”-不可能-継続

“毎晩遅くなるから、毎朝なかなか起きることができないんだ。”

※kolay 「易しい、簡単な」、kolay kolay 「やすやすと」

107. 寝ています。

Uyu-yor.

“寝る”-継続

“寝ている。”

108. ほら、いびきをかき始めたよ。

Şu-na bak. Horla-ma-ya başla-dı.

“そこ”-与“見る”命令 “いびきをかく”-動名-与 “始める”-過去

“ほら (=そこをみろ)。いびきをかき始めた。”

109. 今夜はあくびばかりしていた。

Bütün	gece	esne-yip	dur-du.
“全ての”	“夜”	“あくびをする”-連用	“し続ける”-過去
“夜通しあくびをし続けた。”			

## 4 おわりに

本稿執筆にあたって、過去の調査結果を再考することになったのはいい機会であった<sup>14</sup>。また、福盛 (2014)を刊行したことによって、完成までにどの程度の時間がかかるかを経験によって理解することができた。その結果、二千文を未完に終わらせないための方法論を今は公開しないが考えることができた。また何年かかるか分からないが、もう一度一からトルコ語二千文の作成を目指したいと考える次第である。

### 【参考文献】

- Frei, Henri (1953) *Le livre des deux mille phrases*. Genève: Droz.  
 福盛貴弘 (2014)「大阪方言二千文」『一般言語学論叢』17: 1-151.  
 福盛貴弘・Bökesoy, Deniz・宇都木昭・高慧禎 (2001)「アルタイ諸語における「文の辞典」」『言語学論叢』20: 47-60.  
 福盛貴弘・池田潤 (2002)「文字の分類案 — 一般文字学の構築を目指して —」『一般言語学論叢』4/5: 35-58.  
 フレ, アンリ (1971)『日本語二千文』早稲田大学語学教育研究所  
 城生佰太郎 (1975)「モンゴル語二千文 (上)」『モンゴル学会報』6: 21-30.

<sup>14</sup> 全くもって私事による蛇足になるが、2012年の脳炎発症以降苛まされてきた言語障害において、母語については福盛 (2014)によるリハビリでかなり回復しつつある。一方、脳の症状を鑑みて、トルコ語との対峙を避けてきた。理由は脳がまだ外国語はやめておけという悲鳴をあげていたからである。言語を操ることがいかに脳に負荷がかかるかは脳の病気を経験しないとなかなか実感できないことである。このリハビリによってまだまだではあるが、少しは外国語にも立ち向かえるようになったと思っている。

岡村隆博・沢木幹栄・中島由美・福嶋秩子・菊池聡 (2006) 『徳之島方言二  
千文辞典』信州大学人文学部

# The 109/2000 sentences of Turkish

Takahiro FUKUMORI

This paper is an interim report on Turkish corpus based on “*Le livre des deux milles phrase* (Frei 1953)”. “*Le livre des deux milles phrases*” is a dictionary of sentences containing 2,000 lexical items as headings to indicate example sentences corresponding to those headings. It was published for the purpose of verifying differences among languages by translating these example sentences into other languages in an attempt to indicate not only differences among vocabularies but also differences based on contexts. According to this purpose, it was translated into nine languages including British English, American English and Chinese at a relatively early stage, while it has not been translated in other areas. As for SOV-type languages, it was applied to Mongolian, Japanese, Tokunoshima dialect and Osaka dialect in the past.

“*Nihongo nisenbun*” was published in 1971 as a translated version of Frei (1953). In this Japanese translated version, 2,000 example sentences indicated in a common Japanese language were translated into multiple example sentences by a Turkish person via a face-to-face survey. The author and survey subject reviewed these example sentences to choose the best example sentence, which was noted by the author. Careful confirmation of each item with the face-to-face survey required more time than necessary, resulting in only 109 example sentences in this uncompleted interim report. It was yet determined that these example sentences could be utilized by other researchers.

*Faculty of Foreign Languages*

*Daito Bunka University*

*1-9-1 Takashimadaira, Itabashi, Tokyo 175-8571, Japan*

*E-mail: ICG01649@nifty.com*